

古文「連体形止め」識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

はじめに

文末が連体形で終わるのには、二つの理由があります。一つは**係り結び**（文中の「ぞ・なむ・や・か」が文末を連体形にする）、もう一つは**余情・詠嘆の連体形止め**（係助詞がないのに連体形で言いさし、「～よ・～なあ」という余韻を残す）です。さらに、そもそも**終止形でふつうに言い切っている**だけのものも混ざります。

この三つを、傍線部（文末の語）を見て分類しましょう。

記号	タイプ	見分けの軸
ア	係り結びの連体形	文中に「 ぞ・なむ・や・か 」あり → 文末は必ず連体形
イ	余情・詠嘆の連体形止め	係助詞なし + 連体形 で言いさす（～ことよ、の余韻）
ウ	連体形止めではない	係助詞なし + 終止形 でふつうに言い切る

鉄則 - まず「**ぞ・なむ・や・か**」を探す。あれば必ず連体形で結ぶ＝ア（係り結び）。 - **係助詞がなければ、文末語の形を見る**。連体形（ける・なる・める・見ゆる…）ならイ、終止形（けり・なり・めり・見ゆ…）ならウ。 - **終止形と連体形の形の違いがカギ**。「けり／ける」「なり／なる」「見ゆ／見ゆる」のように、形が違う語で練習すれば確実。四段（咲く＝咲く）は同形なので、係助詞の有無で決める。 - 「こそ」は**已然形で結ぶ**ので、連体形止めとは別物。ここでは出てきません。

🎯 解き方のコツ

- 文中に「**ぞ・なむ・や・か**」があるか確認。→あれば**ア**。
- なければ、**文末語が連体形か終止形か**を見る。「ける・なる・める・たる・見ゆる・落つる」などは連体形、「けり・なり・めり・たり・見ゆ・落つ」などは終止形。
- 連体形で言いさしていればイ**（余情・詠嘆）。「～ことよ」「～なあ」と余韻を補って訳す。
- 終止形で言い切っていればウ**。ふつうの文末で、連体形止めではない。

採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	21／30
第4部 入試	Q81～Q100	13／20

【第1部】基礎（Q1～Q20）

Q1. 次の傍線部「聞こゆる」は、ア～ウのどれか。

> 鐘の音ぞ聞こゆる。

Q2. 次の傍線部「聞こゆる」は、ア～ウのどれか。

> 夜ふけて鐘の聞こゆる。

Q3. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～ウのどれか。

> 夜ふけて鐘聞こゆ。

Q4. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

> 山里なむ寂しさまさりける。

Q5. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

> 秋の野の花の散りける。

Q6. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

▶ 秋の野の花散りけり。

Q7. 次の傍線部「し」は、ア～ウのどれか。

▶ これや君の言ひし。

Q8. 次の傍線部「落つる」は、ア～ウのどれか。

▶ 昔を恋ふる涙の落つる。

Q9. 次の傍線部「落つ」は、ア～ウのどれか。

▶ 昔を恋ひて涙落つ。

Q10. 次の傍線部「近き」は、ア～ウのどれか。

▶ いづれの山か天に近き。

Q11. 次の傍線部「白き」は、ア～ウのどれか。

▶ 峰に立つ雲の白き。

Q12. 次の傍線部「白し」は、ア～ウのどれか。

▶ 峰に立つ雲白し。

Q13. 次の傍線部「くる」は、ア～ウのどれか。

▶ 人ぞ訪ねくる。

Q14. 次の傍線部「くる」は、ア～ウのどれか。

▶ 待つ人の訪ねくる。

Q15. 次の傍線部「く」は、ア～ウのどれか。

▶ 待つ人訪ねく。

Q16. 次の傍線部「隠るる」は、ア～ウのどれか。

▶ 月なむ雲に隠るる。

Q17. 次の傍線部「隠るる」は、ア～ウのどれか。

▶ 西の山に月の隠るる。

Q18. 次の傍線部「隠る」は、ア～ウのどれか。

▶ 西の山に月隠る。

Q19. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

▶ 事ぞ成りぬる。

Q20. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

> 年月のはや過ぎぬる。

【第2部】標準 (Q21～Q50)

解答：

Q21. 次の傍線部「める」は、ア～ウのどれか。

> 雨ぞ降るめる。

Q22. 次の傍線部「める」は、ア～ウのどれか。

> 空くらくして雨の降るめる。

Q23. 次の傍線部「めり」は、ア～ウのどれか。

> 空くらくして雨降るめり。

Q24. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

> 都なむ恋しかりける。

Q25. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

> 旅の空に都の恋しかりける。

Q26. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

> 旅の空に都恋しかりけり。

Q27. 次の傍線部「忘るる」は、ア～ウのどれか。

▶ いくつか忘るる。

Q28. 次の傍線部「偲ぼるる」は、ア～ウのどれか。

▶ 昔の人の偲ぼるる。

Q29. 次の傍線部「偲ぼる」は、ア～ウのどれか。

▶ 昔の人偲ぼる。

Q30. 次の傍線部「たる」は、ア～ウのどれか。

▶ 花ぞ散りたる。

Q31. 次の傍線部「たる」は、ア～ウのどれか。

▶ 庭の桜の散りたる。

Q32. 次の傍線部「たり」は、ア～ウのどれか。

▶ 庭の桜散りたり。

Q33. 次の傍線部「聞こゆる」は、ア～ウのどれか。

▶ これなむ世に聞こゆる。

Q34. 次の傍線部「聞こゆる」は、ア～ウのどれか。

▶ 浦の波の音の**聞こゆる**。

Q35. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～ウのどれか。

▶ 浦の波の音**聞こゆ**。

Q36. 次の傍線部「ゆく」は、ア～ウのどれか。

▶ 秋ぞ深くなり**ゆく**。

Q37. 次の傍線部「暮るる」は、ア～ウのどれか。

▶ 秋の日のやうやう**暮るる**。

Q38. 次の傍線部「暮る」は、ア～ウのどれか。

▶ 秋の日やうやう**暮る**。

Q39. 次の傍線部「まさる」は、ア～ウのどれか。

▶ いづれか花の**まさる**。

Q40. 次の傍線部「優れたる」は、ア～ウのどれか。

▶ 軒の梅の香の**優れたる**。

Q41. 次の傍線部「優れたり」は、ア～ウのどれか。

▶ 軒の梅の香優れたり。

Q42. 次の傍線部「はかなき」は、ア～ウのどれか。

▶ 世ぞはかなき。

Q43. 次の傍線部「はかなき」は、ア～ウのどれか。

▶ うたかたの世のはかなき。

Q44. 次の傍線部「はかなし」は、ア～ウのどれか。

▶ うたかたの世はかなし。

Q45. 次の傍線部「つる」は、ア～ウのどれか。

▶ 鶯なむ鳴き初めつる。

Q46. 次の傍線部「つる」は、ア～ウのどれか。

▶ 春浅く鶯の鳴き初めつる。

Q47. 次の傍線部「つ」は、ア～ウのどれか。

▶ 春浅く鶯鳴き初めつ。

Q48. 次の傍線部「出づる」は、ア～ウのどれか。

▶ 月ぞ山の端に出づる。

Q49. 次の傍線部「出づる」は、ア～ウのどれか。

▶ 夜やうやくふけて月の出づる。

Q50. 次の傍線部「出づ」は、ア～ウのどれか。

▶ 夜やうやくふけて月出づ。

【第3部】 応用 (Q51～Q80)

解答：

Q51. 次の傍線部「ざる」は、ア～ウのどれか。

▶ いかでかこの世を厭はざる。

Q52. 次の傍線部「過ぐる」は、ア～ウのどれか。

▶ はかなくて年の過ぐる。

Q53. 次の傍線部「過ぐ」は、ア～ウのどれか。

▶ はかなくて年過ぐ。

Q54. 次の傍線部「流るる」は、ア～ウのどれか。

▶ 涙ぞ袖に流るる。

Q55. 次の傍線部「流るる」は、ア～ウのどれか。

▶ 袖の上に涙の流るる。

Q56. 次の傍線部「流る」は、ア～ウのどれか。

▶ 袖の上に涙流る。

Q57. 次の傍線部「なる」は、ア～ウのどれか。

▶ これやこの世の名残なる。

Q58. 次の傍線部「落つる」は、ア～ウのどれか。

▶ 別れを惜しむ涙の落つる。

Q59. 次の傍線部「落つ」は、ア～ウのどれか。

▶ 別れを惜しみて涙落つ。

Q60. 次の傍線部「ざる」は、ア～ウのどれか。

▶ 誰かは花を惜しまざる。

Q61. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

▶ 散る花を惜しむ心のありける。

Q62. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

▶ 散る花を惜しむ心ありけり。

Q63. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

▶ 月ぞくまなく照らしける。

Q64. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

▶ 秋の夜の月の隈なく照らしける。

Q65. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

▶ 秋の夜の月隈なく照らしけり。

Q66. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

▶ 人やむなしくなりぬる。

Q67. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

▶ あへなくも人の亡くなりぬる。

Q68. 次の傍線部「ぬ」は、ア～ウのどれか。

▶ あへなくも人は亡くなりぬ。

Q69. 次の傍線部「まさる」は、ア～ウのどれか。

▶ いとど月ぞ澄み**まさる**。

Q70. 次の傍線部「暮るる」は、ア～ウのどれか。

▶ 冬の日のとく**暮るる**。

Q71. 次の傍線部「暮る」は、ア～ウのどれか。

▶ 冬の日とく**暮る**。

Q72. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

▶ あはれとや鳥も鳴き**ぬる**。

Q73. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

▶ 暁の鳥の鳴き**ぬる**。

Q74. 次の傍線部「ぬ」は、ア～ウのどれか。

▶ 暁に鳥鳴き**ぬ**。

Q75. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

▶ いづれの春か忘られ**ける**。

Q76. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

▶ 過ぎし春の忘られける。

Q77. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

▶ 過ぎし春忘られけり。

Q78. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

▶ 波の上にや舟は出でける。

Q79. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

▶ 沖つ波に舟の出でける。

Q80. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

▶ 沖つ波に舟出でけり。

【第4部】入試 (Q81～Q100)

解答：

Q81. 次の傍線部「劣れる」は、ア～ウのどれか。

▶ いにしへや今に劣れる。

Q82. 次の傍線部「残れる」は、ア～ウのどれか。

▶ 世はうつろひて、昔の面影の残れる。

Q83. 次の傍線部「残れり」は、ア～ウのどれか。

▶ 世はうつろひて、昔の面影**残れり**。

Q84. 次の傍線部「おどろかるる」は、ア～ウのどれか。

▶ 秋来ぬと、風の音にぞ**おどろかるる**。

Q85. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

▶ 夜半の嵐に夢の破れ**ぬる**。

Q86. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

▶ 夜半の嵐に夢も破れに**けり**。

Q87. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

▶ あはれや秋の暮れ**ぬる**。

Q88. 次の傍線部「早き」は、ア～ウのどれか。

▶ もの思ふと過ぐる月日の**早き**。

Q89. 次の傍線部「早し」は、ア～ウのどれか。

▶ もの思ふほどに月日**早し**。

Q90. 次の傍線部「べき」は、ア～ウのどれか。

▶ いづくにか身を隠**すべき**。

Q91. 次の傍線部「深き」は、ア～ウのどれか。

▶ 世を厭ふ心のいと**ど深き**。

Q92. 次の傍線部「深し」は、ア～ウのどれか。

▶ 世を厭ふ心いと**ど深し**。

Q93. 次の傍線部「ぬ」は、ア～ウのどれか。

▶ 契りぞ末の世までも**変はらぬ**。

Q94. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

▶ 軒端の松の年**経ぬる**。

Q95. 次の傍線部「経たり」は、ア～ウのどれか。

▶ 軒端の松も年**経たり**。

Q96. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

▶ いかなる世にかまた**逢ひ見ける**。

Q97. 次の傍線部「立ち添へる」は、ア～ウのどれか。

> 別れにし人の面影の**立ち添へる**。

Q98. 次の傍線部「立ち添へり」は、ア～ウのどれか。

> 別れにし人の面影**立ち添へり**。

Q99. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

> 世のはかなき事を思ふに、涙のみぞ**こぼれける**。

Q100. 次の傍線部「思ほゆる」は、ア～ウのどれか。

> 来し方行く末を思ひつづくるに、袖の濡るる秋の夕暮れの、いとどものあはれに**思ほゆる**。

採点と振り返り

部	問題数	あなたの正答数
第1部 基礎	20	/20
第2部 標準	30	/30
第3部 応用	30	/30
第4部 入試	20	/20
合計	100	/100

まちがえた問題は、次の2点にもどって確認しましょう。

- 文中に「ぞ・なむ・や・か」があるか。あれば、文末が連体形になるのは係り結びのため（ア）。係助詞を見落とさないこと。
- 係助詞がなければ、文末語が連体形か終止形か。「ける・なる・める・たる・見ゆる・落つる」は連体形（イ＝余情・詠嘆）、「けり・なり・めり・たり・見ゆ・落つ」は終止形（ウ＝ふつうの言い切り）。

形の違いがカギです。 「けり／ける」「なり／なる」「見ゆ／見ゆる」のペアを正確に覚えれば、係助詞のない連体形止め（余情・詠嘆）も自信を持って見抜けます。

解答：

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosensei.com>